

News Release

2018年12月26日

報道関係各位

株式会社ティア

2014年から毎年行っている葬儀に関する大規模(全国の40歳以上の男女1,000名)調査

第5回 “葬儀” に対する意識・実態調査

- これまでの調査から、自分の葬儀を「してもらいたくない人」が増加傾向にあることが判明。一方、「配偶者の葬儀をしたい人」、「親の葬儀をしたい人」は約80%をキープし続けており、依然として「大切な人の葬儀は行いたい」という意向が明らかに。
- 「これまでの葬儀に出席して良かった」と回答した人は78.5%と大多数を占める結果となり、引き続き葬儀に対する潜在的ニーズは高いことが判明。
- 『終活実施の有無』を尋ねたところ、「終活をしていない」と回答した人は、85.7%。男女別では、男性では90%超、女性も80%超えという高水準に。

名古屋市内を中心に、関東、東海、関西地方で葬祭事業とフランチャイズ事業を展開する株式会社ティア（本社：愛知県名古屋市北区、代表取締役社長：富安 徳久）は、2014年から毎年、全国の40歳以上の男女1,000名を対象に、“葬儀”に対する意識と実態について、インターネット調査を行っています。第5回目となる本年の調査結果がまとまりましたので、下記にてご案内いたします。

『第5回 “葬儀”に対する意識・実態調査』トピックス

1. 葬儀の実施意向について

- 葬儀の実施意向について、「自分の葬儀をしてもらいたくない人」（52.5%）が「自分の葬儀をしてもらいたい人」（47.5%）を上回る結果に。「自分の葬儀をしてもらいたくない人」は年々増加する傾向にあり、5年前の調査からは3.4ポイント上昇となった。一方、「配偶者の葬儀をしたい人」は80.4%、「親の葬儀をしたい人」は79.7%となり、「大切な人の葬儀をしたい」という想いは強く、その理由も「供養のために必要だから」「気持ちに区切りをつけたい」が多くを占める。

2. 葬儀に対する価値観について

- 昨年に引き続き、「これまでの葬儀に出席して良かった」と回答した人は78.5%と大多数を占め、出席して良かった理由は「最期のお別れができた」（56.0%）が最多、次いで「気持ちに区切りをつけることができたから」（48.4%）という結果に。

3. 葬儀に関する親・配偶者とのコミュニケーションについて

- 配偶者または親と“葬儀について話し合ったことはありますか？”と質問したところ、「配偶者、親ともに話し合ったことがある」と答えたのはわずか11.9%。半数を超える人（53.1%）が「配偶者、親ともに話し合ったことはない」と回答しており、その理由として「残された人間で決めればいから」「気分を害したくないから」の回答が多くを占める。改めて、配偶者・親と葬儀について話をすることの難しさが表れる結果に。

4. 終活について

- 「終活実施の有無」を尋ねたところ、全体の85.7%が終活を「していない」と回答。男女別で比較してみると、男性は90.6%、女性は80.8%となり、男性は特に自らの死後について準備していないことが顕著となった。

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社ティア 広報事務局 担当：杉浦、江頭 TEL：03-3571-5228 FAX：03-3571-5360

1. 葬儀の実施意向について

- 葬儀の実施意向について、「自分の葬儀をしてもらいたくない人」(52.5%)が「自分の葬儀をしてもらいたい人」(47.5%)を上回る結果に。
- 「自分の葬儀をしてもらいたくない人」は年々増加する傾向にあり、5年前の調査からは3.4ポイント上昇となった。
- 一方、「配偶者の葬儀をしたい人」は80.4%、「親の葬儀をしたい人」は79.7%となり、「大切な人の葬儀をしたい」という想いは強く、その理由も「気持ちに区切りをつけたい」「供養のために必要だから」が多くを占める。

第1回目から続く質問である“自分が亡くなった後、葬儀をしてもらいたいですか？”については、「してもらいたくない」が52.5%、「してもらいたい」が47.5%となり、**3年連続で「葬儀をしてもらいたくない人」が「してもらいたい人」を上回りました。**今後もこの傾向は続いていくことが予想されます。

一方、“配偶者が亡くなった後、配偶者の葬儀をしたいですか？”を尋ねたところ、「したい」が80.4%、「したくない」が19.6%という結果となり、過去5年の推移を見ても、「したい」が毎年80%前後を維持し続けています。

また、3年前から調査している“親の葬儀をしたいですか？”という質問の結果では、こちらも「したい」が79.7%、「したくない」が29.3%になりました。

親、配偶者の葬儀をしたい理由は「**気持ちに区切りをつけたいから**」、「**供養のために必要な儀式だから**」といった回答が多く、当社では今後もこの「**自分の葬儀はしなくてもよいが、大切な人（配偶者や親）の葬儀はやってあげたい**」という流れは変わらないと考えております。

表1: 自分が亡くなった後、葬儀をしてもらいたいですか？(2014年～2018年)

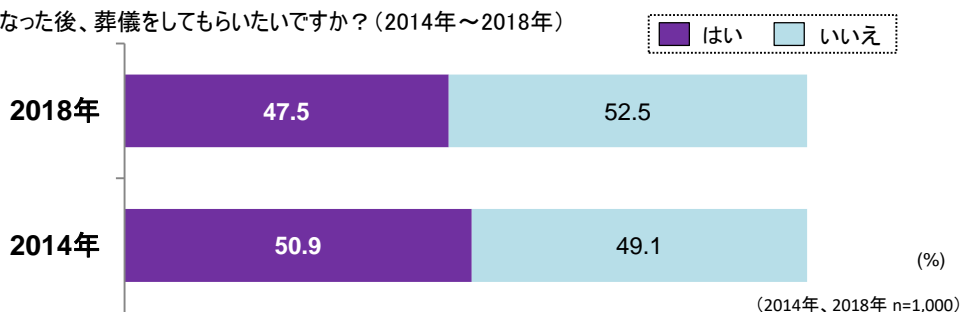


表2: 配偶者が亡くなった後、配偶者の葬儀をしたいですか？(2014年、2018年)

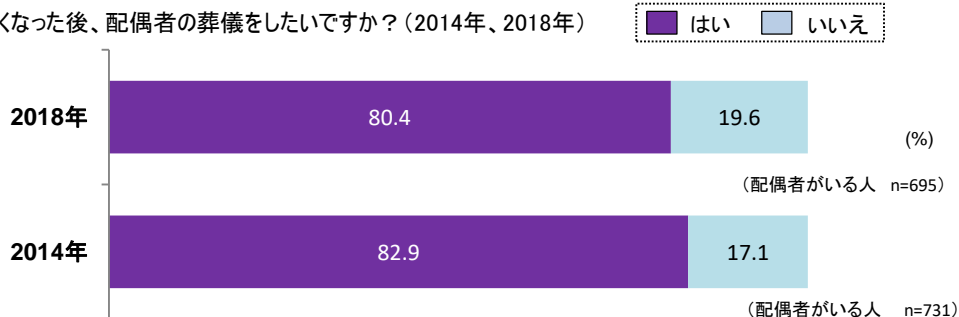


表3: 親が亡くなった後、親の葬儀をしたいですか？(2016年、2018年)

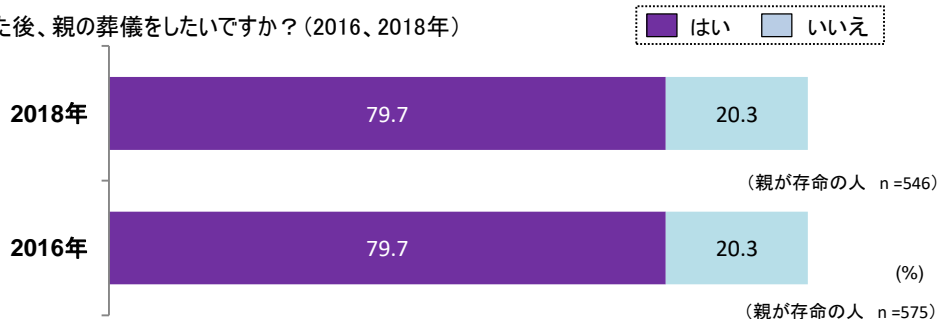


表4: 自分の葬儀をしたい・したくない理由(複数回答)

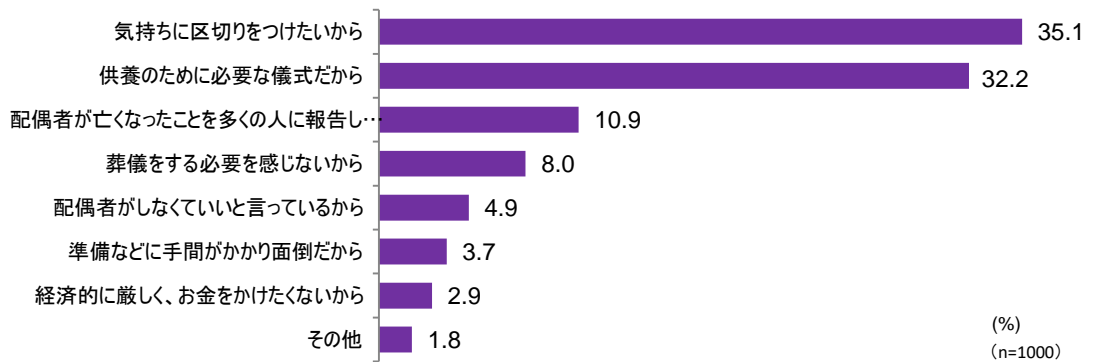


表5: 配偶者の葬儀をしたい・したくない理由を教えてください(複数回答)

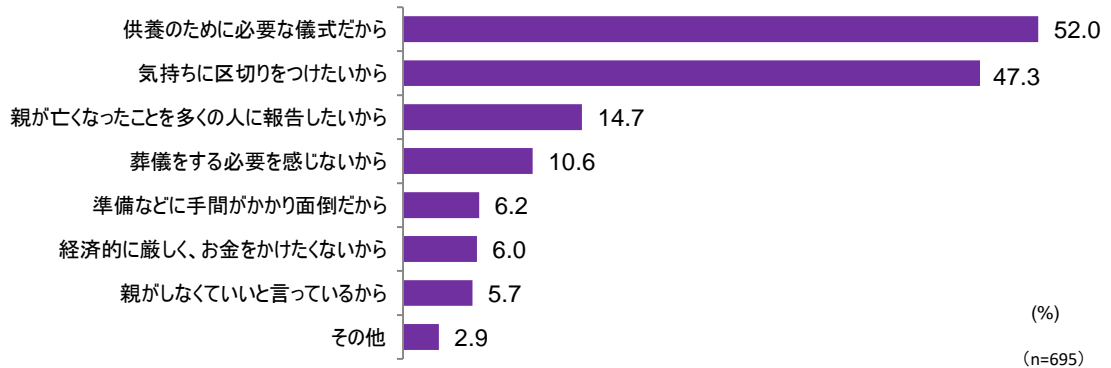
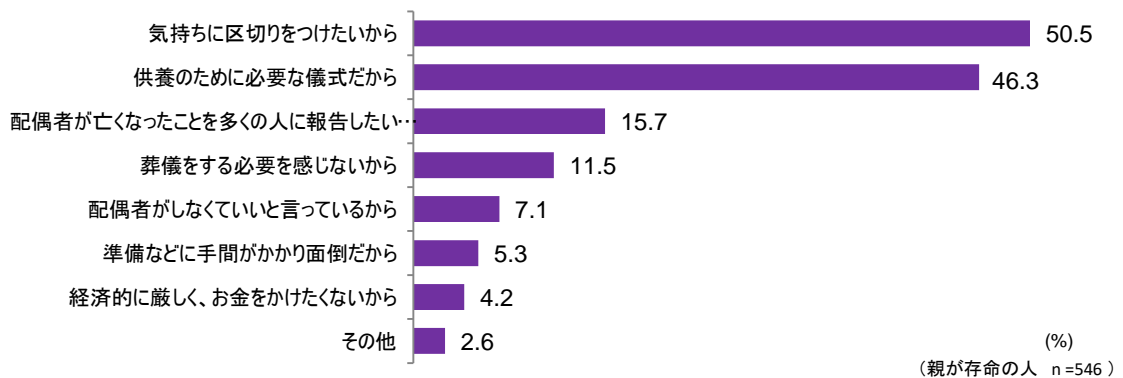


表6: 親の葬儀をしたい・したくない理由を教えてください(複数回答)



2. 葬儀に対する価値観について

- 昨年に引き続き、「これまでの葬儀に出席して良かった」と回答した人は78.5%と大多数を占め、出席して良かった理由は「最期のお別れができた」（56.0%）が最多、次いで「気持ちに区切りをつけることができたから」（48.4%）という結果に。

“これまでの葬儀に出席して良かったですか？”という質問に対し、「はい」と回答した人は78.5%と昨年（79.6%）に引き続き多数を占める結果になりました。男女の比較においても男性（77.6%）、女性（76.4%）と変わりがなく、男女ともに、葬儀への出席に対し高い価値を置いていることがわかりました。

また葬儀に出席して良かった理由を尋ねたところ、「**最期のお別れができた**」（56.0%）が最多、次いで「**気持ちに区切りをつけることができたから**」（48.4%）、「**供養のために必要な儀式だから**」（38.2%）の順になりました。

こちらも昨年に引き続き、自らの葬儀は必要ないという人が多いにもかかわらず、葬儀へ出席して良かったというギャップが垣間見られる結果になりました。

表7:これまでの葬儀に出席して良かったですか？

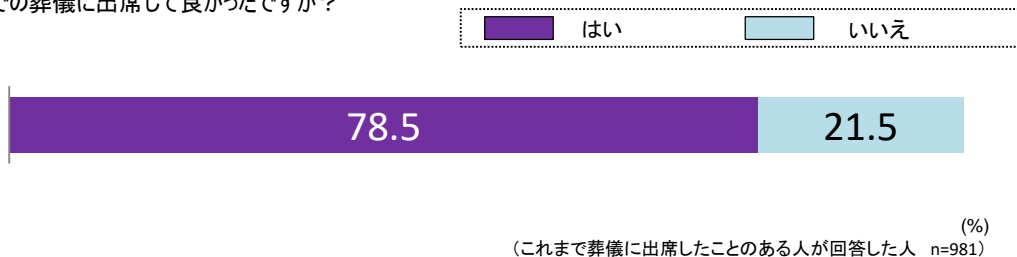
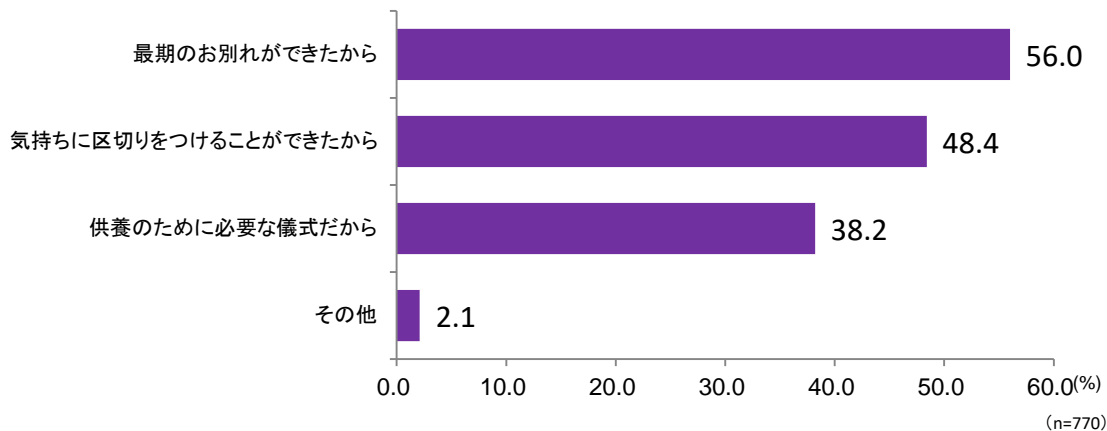


表8:葬儀に出席して良かった理由は何ですか？(複数回答)



3. 葬儀に関する親・配偶者とのコミュニケーションについて

- 配偶者または親と“葬儀について話し合ったことはありますか？”と質問したところ、「配偶者、親ともに話し合ったことがある」と答えたのはわずか11.9%。
- 半数を超える人（53.1%）が「配偶者、親ともに話し合ったことはない」と回答しており、その理由として「残された人間で決めればいいから」「気分を害したくないから」の回答が多くを占める。
- 改めて、配偶者・親と葬儀について話をすることの難しさが表れる結果に。

“葬儀の準備について、配偶者または親と話し合ったことはありますか？”と質問したところ、「配偶者とも親とも話し合ったことがある」と答えたのはわずか**11.9%**にとどまり、**53.1%**が「**配偶者とも親とも話し合ったことはない**」と回答しました。話し合わなかった理由を尋ねたところ「**残された人間で決めればいい**」と回答した人が最も多く（親25.3%、配偶者35.3%）、また「**気分を害したくないから**」（親10.1%、配偶者13.8%）という意見も多くの回答を集め、親しい間柄であっても、葬儀の話をすることに躊躇している姿が見て取れます。話し合った理由を尋ねたところ「**準備をしておけば慌てずに済むから**」と答えた方が最も多く、様々な準備が必要となる葬儀への備えを考えている人も一定数いることがわかりました。

表9: 葬儀の準備について、配偶者または親と話し合ったことはありますか？

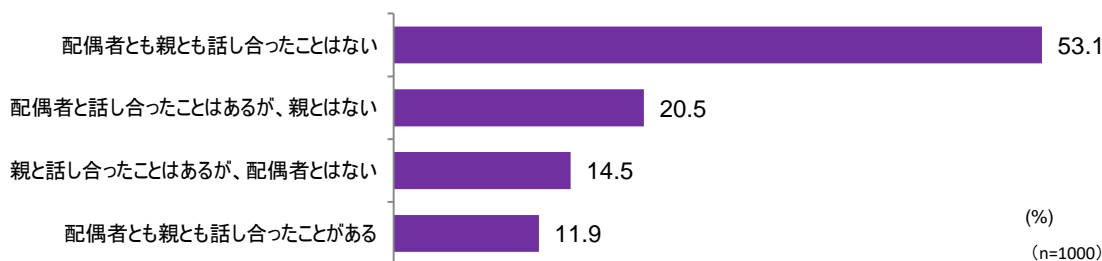


表10: それは何故ですか？Q10のように回答した理由を教えてください。／親について(MA)

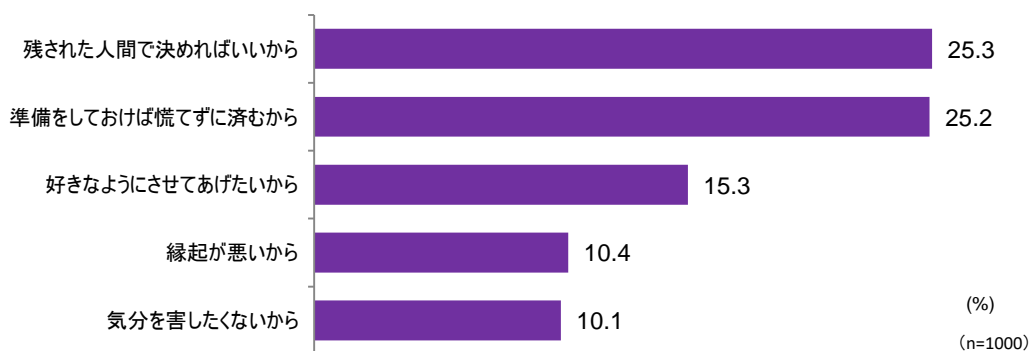
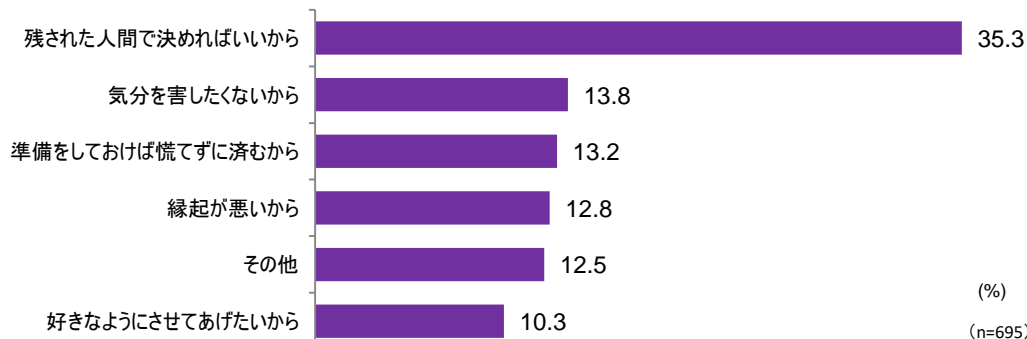


表11: それは何故ですか？Q10のように回答した理由を教えてください。／配偶者について(MA)



4. 『終活』に対する意識と実態について

- 「終活実施の有無」を尋ねたところ、全体の85.7%が終活をしていないと回答。
- 男女別で比較してみると、男性は90.6%、女性は80.8%となり、男性は特に自らの死後について準備していないことが顕著となった。

“現在『終活』をしていますか？”という質問に対し、「**していない**」と回答した人は**85.7%**。男女で比較すると、「終活をしていない」と答えた男性は90.6%、女性も80.8%となり、男性が特に自らの死に対する準備を行っていないことが判明しました。

『終活』の内容では生前整理（男性：55.3%、女性：76.0%）が最も多く、次いでエンディングノートの作成（男性31.9%、女性42.7%）という結果になり、比較的、精神的にハードルの低い分野から手を付けている様子が見えます。この傾向は、特に女性で顕著に表れており、男性の回答を10ポイント以上も上回る結果になりました。

表12: 現在、『終活』をしていますか？

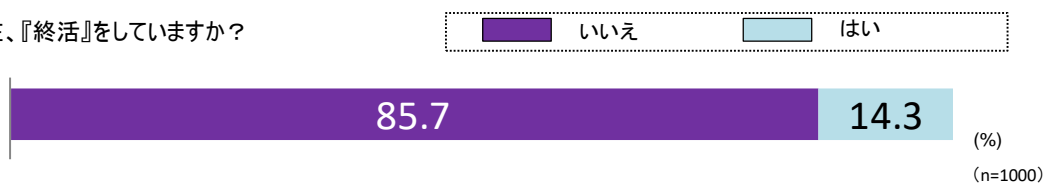


表13: 現在、『終活』をしていますか？（男性）

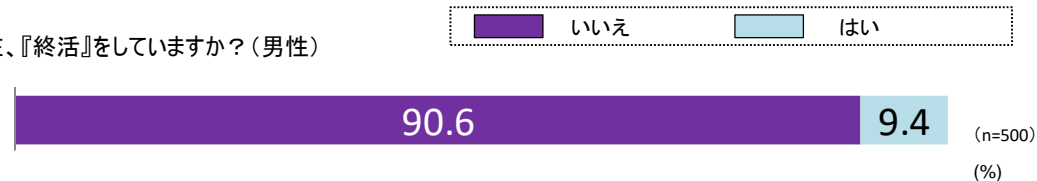


表14: 現在、『終活』をしていますか？（女性）

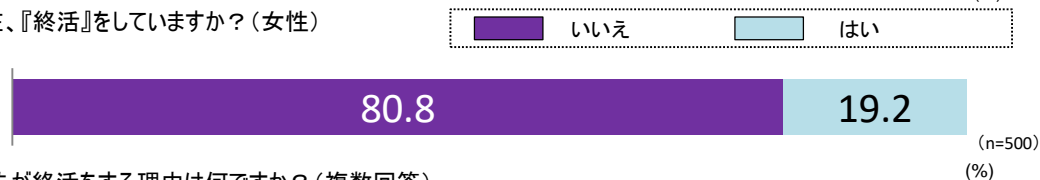


表15: あなたが終活をする理由は何ですか？（複数回答）

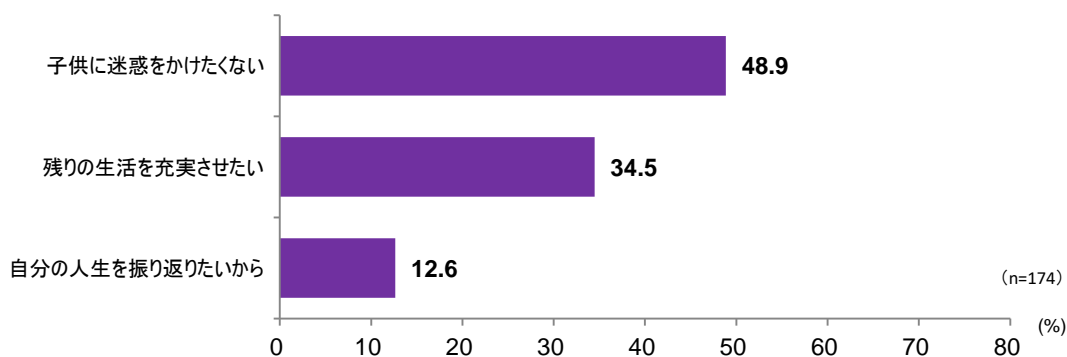


表16: あなたが終活をしない理由は何ですか？（複数回答）

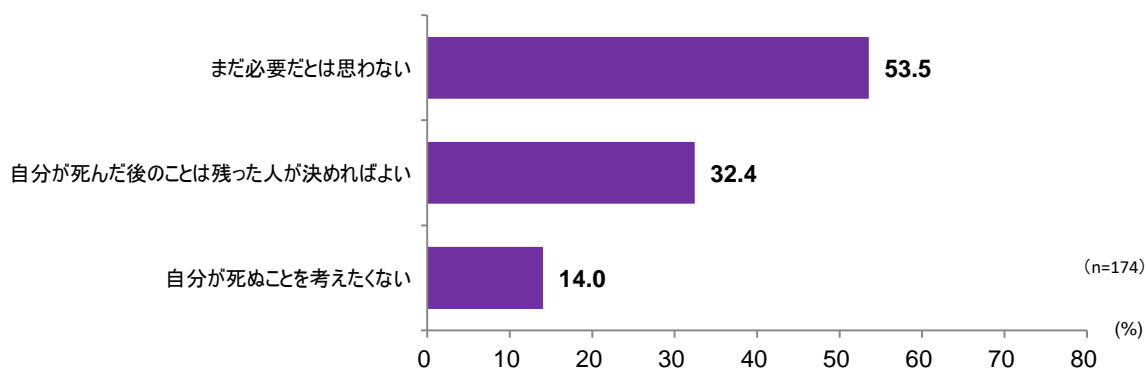


表17:【男性】どんな『終活』をしていますか？(複数回答)

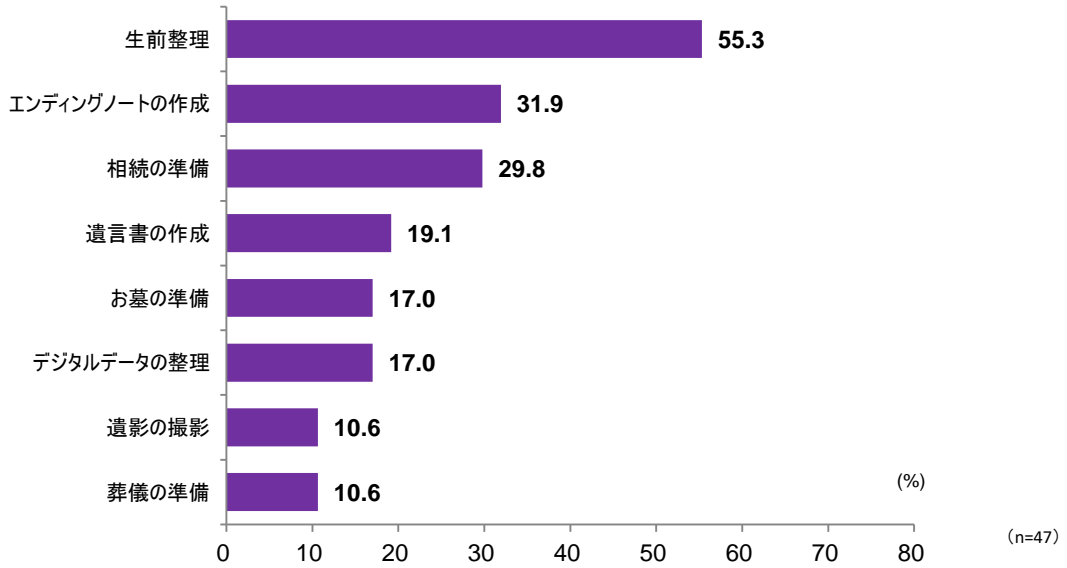


表18:【女性】どんな『終活』をしていますか？(複数回答)

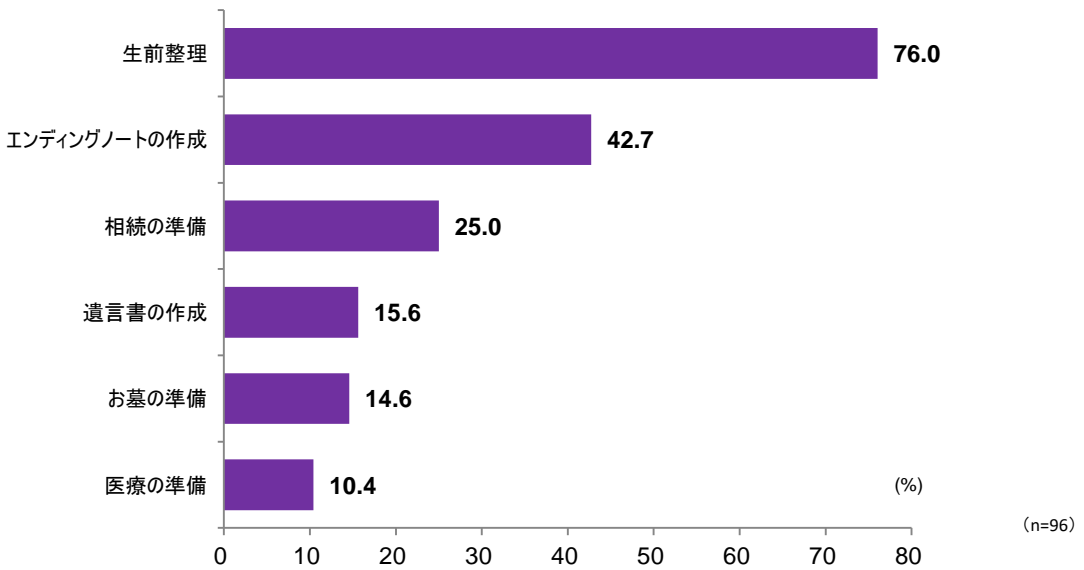
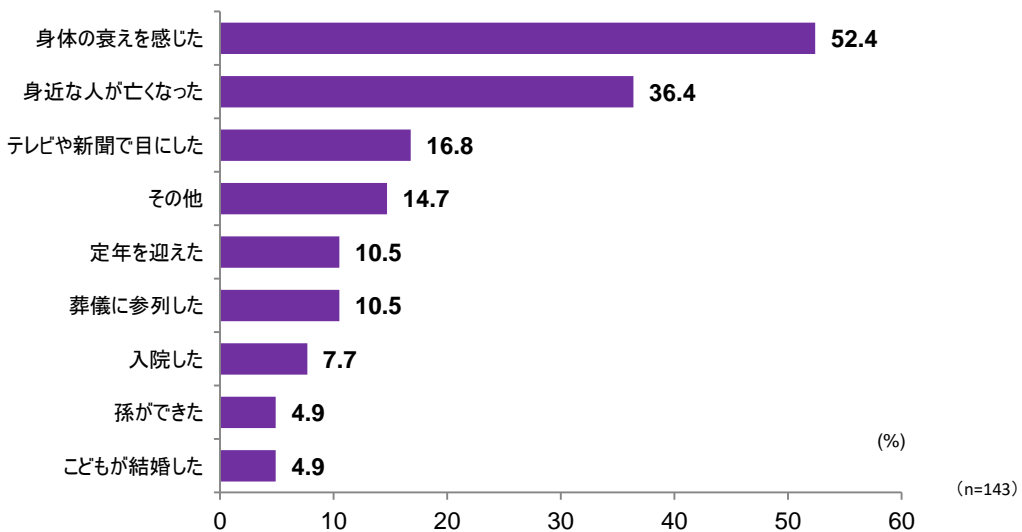


表19:どんなキッカケで『終活』を始めましたか？(複数回答)



調 査 概 要

調査対象	40代～70代の男女
調査地域	全国
調査方法	インターネットリサーチ
調査時期	2018年11月30日（金）～12月3日（月）
サンプル数	1,000サンプル（各年代250名〔男女各125名〕）

＜株式会社ティア 会社概要＞

本 社 愛知県名古屋市中区黒川本通3丁目35番地1
代 表 者 代表取締役社長 富安 徳久（トミヤス ノリヒサ）
設 立 1997年7月
資 本 金 11億8,400 万円（2018年9月末現在）
上 場 市 場 東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部
従 業 員 数 475名（2018年9月末現在）
事 業 内 容 葬儀・法要事業、フランチャイズ事業
会 館 数 104会館（2018年11月末現在）

住所	会館	会館名	住所	会館	会館名
愛知県	29	ティア中川、ティア笠寺、ティア港、ティア山王、ティア緑、ティア御器所、ティア大幸、ティア黒川、ティア黒川東館、ティア中村、ティア相生山、ティア名港、ティア浄心、ティア守山、ティア熱田、ティア四軒家、ティア瑞穂、ティア名東、ティア栄生、ティア道徳、ティア覚王山、ティア本陣、ティア松葉公園、ティア滝ノ水、ティア岩塚、ティア原、ティア下之一色、家族葬ホール ティア千代田橋、家族葬ホール ティア猪高	岐阜県	2	ティア養老、ティアふなやす
		大垣市	2	ティア大垣、大垣東	
		海津市	1	ティア海津	
		不破郡	1	ティア垂井	
		三重県	1	ティア桑名	
		津市	1	ティア津	
		鈴鹿市	1	ティア白子	
		門真市	1	ティア門真	
		河内長野市	1	ティア千代田	
		泉大津市	1	ティア泉大津	
		貝塚市	1	ティア貝塚	
		富田林市	1	ティア富田林	
		大阪市	1	ティア住之江	
		藤井寺市	1	ティア藤井寺	
		堺市	4	ティア美原、ティア大野芝、ティア浜寺、葬儀相談サロンティア泉ヶ丘	
		大阪狭山市	1	ティア大阪狭山	
		和泉市	1	ティア泉北光明池	
		岸和田市	1	ティア岸和田	
		枚方市	1	ティア枚方	
		大東市	1	ティア大東	
寝屋川市	1	ティア寝屋川			
和歌山県	1	ティア橋本			
橋本市	1	ティア越谷			
埼玉県	1	ティア鳩ヶ谷			
茨城県	1	ティア土浦北			
神奈川県	1	ティア相模大塚			
東京都	2	葬儀相談サロン ティア日暮里、葬儀相談サロン ティア町屋			
岐阜県	6	ティア長良、ティア又丸、ティア加納、ティア芥見、ティア鏡島、ティア梅林	岐阜県	1	ティア大垣、大垣東
各務原市	3	ティア各務原、ティア那加、ティア蘇原	東京都	2	葬儀相談サロン ティア日暮里、葬儀相談サロン ティア町屋